

2 酒造好適米品種「夢の香(福島酒2号)」の栽培法

福島県農業試験場会津支場
平成10～11年度春夏作試験成績概要
分類コード01-01-01132700

部門名 水稻—水稻—品種—施肥法—品質・食味
担当者 大谷裕行・浅沼顕・手代木昌宏

I 新技術の解説

1 要旨

福島県のオリジナル酒造好適米品種「夢の香」は、良質な酒造好適米であり2000年から奨励品種に採用する。本品種の品質と収量が安定する施肥法について検討した。

- (1) 基肥が多いほど茎数確保はし易いが10a当たり基肥6kgで、必要な茎数は確保できる。
- (2) 穂数は総窒素量の増加するほど増加する。穂数確保には10a当たり総窒素8kg程度が必要である。
- (3) 収量は多肥ほど穂数の増加により増収する。「夢の香」はいずれの施肥法でも「五百万石」並から以上の収量である。しかし、検査等級は総窒素が10a当たり8kgまでは1等となったが、10kgでは2等である。
- (4) 「夢の香」は「五百万石」より粒厚2.0mm以上の割合が高い。施肥法間では出穂11日前追肥区で粒厚が厚くなる。しかし、整粒と心白粒を合わせた割合は、出穂18日前追肥区が高い。また、玄米蛋白含有率は10a当たり基肥が6kgでは、出穂18日前追肥区が11日前追肥区より低下する。
- (5) 品質を維持しつつ、収量を安定させるには追肥時期が重要である。「五百万石」より倒伏しにくいので、遅れないように幼穂形成期の追肥を実施する。

2 期待される効果

施肥量を「五百万石」並に抑え、幼穂形成期の追肥を基本とすることで、玄米品質を維持し、蛋白質含有率を低くすることができ、優良なオリジナル酒米としての評価定着が図られる。

3 適用範囲

会津地域平坦の「五百万石」栽培地

4 普及上の留意点

- (1) 基肥量は「五百万石」並から「ひとめぼれ」の間を目安とする。
- (2) 減数分裂期の追肥は、未熟粒、玄米蛋白質含有量が増加するため極力行わない。
- (3) ライスグレーダーの網目は2.0mmを使用する。

II 具体的データ等

表1 成熟期の形態と収量構成要素及び粒厚2.0mm以上の粒重%と検査等級

	施肥 7.2日	稈長	穂長	穂数	m ² 初数	登熟歩合	千粒重	粒厚2.0mm	検査
	法 m ² 茎数	(cm)	(cm)	(本/m ²)	(×100)	(%)	(g)	以上粒重%	等級
1	夢の香 420 452	79.5	20.4	368	270	89.6	26.7	93.4	1下
2	夢の香 422 519	80.1	20.0	390	285	88.3	27.0	94.8	1下
3	夢の香 620 523	80.6	19.1	398	279	89.9	26.1	93.4	1下
4	夢の香 602 515	81.1	19.1	380	290	91.9	26.6	95.0	1下
5	夢の香 622 587	80.3	19.9	406	294	89.1	26.7	94.4	2中
6	夢の香 820 589	81.0	19.5	426	320	89.3	26.3	93.6	2上～2中
7	五百万石 520 -	88.6	22.4	350	308	82.4	26.7	90.5	2上～2中

注) 倒伏程度: 福島酒2号(1区～6区) 0 五百万石(7区) 3～8.5

注) 検査等級は食糧検査事務所会津坂下支所調査

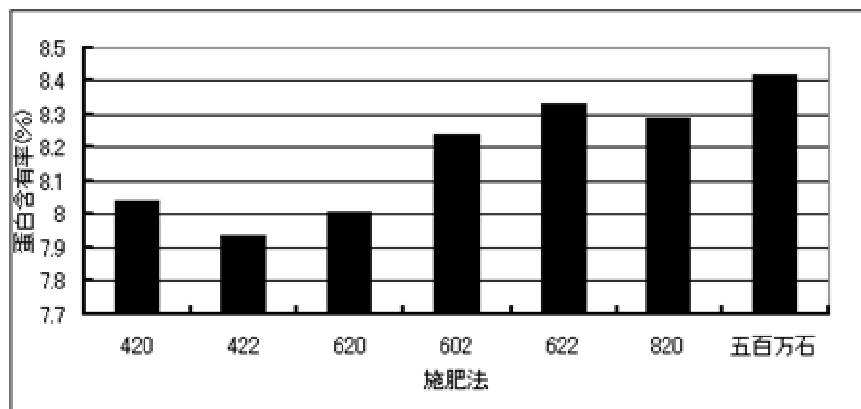


図1 施肥法と蛋白含有率(%)

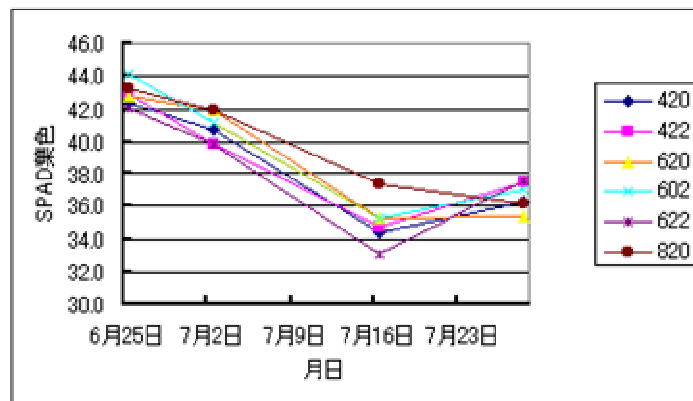


図2 施肥法と葉色(SPAD)

Ⅲ その他

1 執筆者:大谷裕行・荒川市郎

2 主要な参考文献・資料:(1)水稻奨励品種決定調査成績書